

食用きのこ



ムキタケ

秋遅く、ブナ、ミズナラ、コナラなどの広葉樹の枯れ幹、倒木、切り株に発生。ときに毒きのこのツキヨタケと同じところに発生するので要注意。

特徴

- 傘：径5～15cm、半円形。表面は汚黄色、緑色や褐色をおびることがある。表皮ははがれやすい。
ひだ：黄色をおび、幅狭く密。
柄：傘の横に付き、太く短い。

毒きのこ



ツキヨタケ

ブナやイタヤカエデなどの立ち枯れ、倒木に多数重なりあって発生する。食用のシイタケ、ムキタケと誤って食べて中毒する例が多い。おう吐、腹痛、下痢などを起こし、死亡例もある。

特徴

- 傘：半円形～じん臓形、長径10～25cm、初め黄褐色のち紫褐色～暗褐色となり、ロウ状の光沢をおびる。
ひだ：淡黄色～白色、柄に垂生し幅広い。発光性がある。
柄：傘の側方に付き、太くて短い。裂くと中心に黒っぽいしみがある。



※札幌市内では、ツキヨタケの誤食により、昭和53年に5名、平成14年に6名、平成28年に2名がおう吐、腹痛、下痢などの症状を呈する食中毒が起きた。